



2011～2012年度

中津平成週報

Rotary Club Of Nakatsu Heisei



2011～2012年度
国際ロータリー・テーマ

こころの中を見つめよう
博愛を広げるために

国際ロータリー会長
カルヤン・バネルジー

国際ロータリー2720地区 **中津平成ロータリークラブ**

会長 二反田新一 幹事 若松 定生 会報担当 川崎 潤 クラブ広報委員長 川崎 潤

例会日/毎週木曜日 12:30

例会場/グランプラザ中津ホテル TEL 0979-24-7111

事務局/〒871-0055 中津市殿町1383の1 中津商工会館2F

TEL 0979-22-9716 FAX 0979-22-9722

e-mail office@n-heisei.org

<http://www.n-heisei.org/>

第1062回例会 平成24年3月8日(木)

●本日の例会プログラム 会員卓話「ちょっと得するセコロジー」
川崎 潤会員

◎次回例会プログラム 例会変更
地区大会 (3月15日例会分)



前回(1061回例会)の記録

平成24年3月1日(木)

■ゲスト

中津市教育委員会
生涯学習課
社会教育主事 山本健吾氏

■出席報告

会 員 数 25名
免 除 者 数 1名
対 象 者 数 24名
本日出席者 18名
欠 席 者 数 6名
出 席 率 75.00%

■ビジター

山本雄一郎氏 (中津RC)

■前々回出席報告の修正

前々回欠席者 6名
メイクアップ 0名
欠 席 者 6名
修正出席率 75.00%→ **75.00%**

●メイクアップ

●欠席者

出納会員、仲本会員、長野(修) 会員、松本会員、
渡邊会員、宇都宮会員

◎ロータリーソング 君が代、奉仕の理想

◎会長の時間 会長 二反田新一

本日は3月1日です。私個人的、3月と10月～11月初めは一年で好きな時期です。好きというよりも自分の体に最も合っている、または快適に過ごせる時期といった方がいいかもしれません。今年は例年になく寒い日々が続き、「光にあふれる早春」3月の気候が訪れるのはまだ少し先になりそうです。

さて、最近私は大変興味深く視聴したテレビ番組があります。それはNHKの番組で「ヒューマン・なぜ人間になれたのか」と題したものです。今年1月・2月と4回に亘って放映されました。

人間を人間たらしめているものは何なのか?を人類が誕生した20万年前のアフリカから振り返る内容です。アフリカで誕生した人類は6万年前にアフリカから世界へ広が



始めました。1万数千年前にはついに南アメリカの南端まで達しました。時は氷河期であり、大陸は氷の海でつながっていたためそれが可能であったのです。

氷河期が終わり地球全体が温暖になってきた約8000年前に、人類史上最大の革命と言ってもいい「農耕」が行われるようになりました。すると富のたくわえが可能になり、交換が行われ、都市が形成され、やがては貨幣が使用されるようになってきたという番組の流れでした。

ホモサピエンスは誕生から20万年の間、その足取りは決して順調なものではなく、私たちは何度も絶滅の危機を経験してきました。まず誕生したての時期にはアフリカでの他の動物との生存競争、その後北上して世界に広がり始めたころ、氷河期の到来による寒さと飢餓。同じ時期、北方先住種のネアンデルタール人との縄張り争い。温暖化によってもたらされた「農耕の開始」は、同時に温暖化を原因とする世界大洪水での農耕地の消失と飢餓をもたらしまし

「こころの中を見つめよう 博愛を広げるために」 “Reach Within to Embrace Humanity”



2011～2012年度

中津平成週報

Rotary Club Of Nakatsu Heisei



2011～2012年度
国際ロータリー・テーマ

こころの中を見つめよう
博愛を広げるために

た。このように私たちホモサピエンスは、過去20万年、幾多の危機を克服してきました。

この絶滅危機を克服できた要因は、道具を使うという脳の発達のみならず、集団みんなで生きていくという「強い絆」があったからだと説明しています。

人類にはホモサピエンス誕生以来、「人の喜びを自分の喜び」として感じ取るDNAが、自分達の生存のための手段として今も備わっている。それを知って私は、ほっとした気持ちになりました。

しかし、「生存」とは対照的に「文明」となると数多く起こっては消滅しています。農耕や分業により富が蓄えられます。集落は都市となり、そこに文明が起り、同時に格差社会も形成されます。それでもなおいっそうの富の迫及という限りない欲望を迫及し続けて、やがては資源枯渇、社会不安を引き起こし、衰退消滅していった文明が数多くあります。

現在に生きる私たちは、世界が同じ文明を共有していると言えます。今こそ過去に学ぶ姿勢が大事であると感じます。

◎幹事報告 幹事 若松定生

- 中津RCより4月プログラム届く。
- 人権研究会・学習会のご案内。
- 地区大会参加案内を配布。当日は会長、幹事先行の為に、まとめ役をお願いしてあります。
- 例会終了後、理事役員会を開催します。



◎委員会報告

- ・ロータリー財団担当 梶屋会員
ロータリー財団特別寄付のお願い
- ・米山記念奨学会担当 岡野会員
米山奨学会特別寄付のお願い

◎ニコニコボックス

〔若松幹事〕3月10日の地区大会参加者への集合のお知らせ。3月8日は通常例会で、3月15日の例会が例会変更となりますので、お間違えなく。

〔二反田会長〕中津眼科に視野検査に行きました。隣から小路会員の声が聞こえ、声をかけようと思いましたがかけられませんでした。検査の結果は問題なしでした。

〔清源会員〕3、4月と司会進行役ですが、遅刻してしまいました。今日の卓話、よろしくお願いします。

〔長野(修)会員〕2月26日に東京でテコンドーの全国大会があり、息子が2位になりました。娘も初めて参加しましたが、2位になりました。5月にまた、大きな大会があります。

〔梶屋会員〕ニコニコ有り難うございました。

◎ゲスト卓話

「協育ノススメ ～教育の協働の取り組み～」

中津市教育委員会 生涯学習課

社会教育主事 山本健吾氏



中津市教育委員会で現在、力を入れている事業についてご説明致します。

「協育」とは、大分県が作った造語です。「協」の字にある3つの「力」とは、学校・家庭・地域の意味で、この3つの力を合わせて子供達を見守り、育んで行きたいという思いが込められています。

現在、学校・家庭・地域のそれぞれだけで子供達を育てようとする非常に難しく、三者が協力していかなければいけない時代になっています。

今の子供達には地域の大人達との交流を通じて、「褒める」だけの大人とのふれあひが必要です。正しい事だけを教え、あれは駄目、これは駄目という教育だけでは子供達の自己主張が乏しく、コミュニケーション能力の低い人間になってしまいます。

昔は、その環境がありました。遊びに行けば小さな子供から大きな子供までと一緒に遊び、縦社会を学びました。また、地域の大人達も子供達に声をかけ、叱ったり、褒めたりしてくれていました。

それに比べて今の子供達は、ゲームやインターネット、メールなど触れあわなくてもコミュニケーションが取れてしまうので、コミュニケーション能力が低くなってしまいます。

中津市では、各小学校区に公民館があります。各校区に公民館があるということは、子供達が歩いていける場所にあるという事になります。この公民館を拠点として各公民館に「校区ネットワーク会議」が組織され、各公民館に配置された校区コーディネーターを中心として行われている事業が、「なかつスクスクプロジェクト」や「放課後中津子ども教室」です。放課後や休日に各公民館などで実施されています。

事業例について

プール スポーツインストラクター
家庭科(裁縫・ミシン) 地域の主婦達
調理実習(魚の捌き方) 料理店店主
卒業式の練習 中津のコラスグループ
英会話 外国人英会話講師
など。

それ以外にも、PTA授業参観時の託児支援や料理教室、マジック教室、昔の遊び方教室、伝統文化教室(お茶、神楽など)を実施し、平成22年度実績として、活動件数1000件以上、のべ参加ボランティア2万人以上となっています。